

花まるだよ！

2021.10



無人島で考えた

無人島サマースクールが、始まりました。

二回の開催だったのですが、一回目は、二つの台風が地図上で島を避けるように上下に離れた進路を進んでくれ、二回目は大雨予報との戦いだったのですが、線状降水帯がまたも島の北部と南部に発生しながら直撃しないのでくれたりと、運も味方してくれました。無数の星を眺めたり、真っ赤な満月が海にきらめきながら上っていく姿に見とれたり、泥だらけになりながら山の頂上まで「非常食（万が一のための食糧を、島で一番高いところに保存しておく）」を運ぶ手伝いをしてもらったり、ドラム缶風呂に入ったり、思い出が無数にできました。マンツーマンの人生対話では、例えば海に囲まれた岩場に腰掛け、一人ひとりの思いを聞いたのですが、風景の解放感もあるのか、学校の行き渋りのことや両親との離婚のことも、洗いざらいさらけ出して教えてくれました。

無人島担当で広島常駐の社員カトパンが友人になった、地元漁師のIくんは、子どもたちにも都会の受験当然常識の枠組みとは無縁の大人の輝きを見せつけてくれました。ハンサムでいつも笑顔で、20歳なのに「花まる丸」より大型で高速の船を所有していて、軽快にあやつり、操縦させてくれたり海釣りの指導をしてくれたりと、子どもたちに愛を注いで

くれました。あるときは、モーター音と波しぶきとともにさつそうと登場して「サメ釣つたよー」と釣り上げたサメを見せて来てくれました。リアル「サメ肌」に触れた子どもの手には、忘れられない感触が残ったでしょう。私も持たせてもらったのですが、左右に体をひねる力のあるサメの強烈さに驚き、現物に触れる価値を再確認しました。ちなみに、最後の作文で何人かが「僕は、漁師になってサメを釣ります」と書くほどでした。

さて、私自身も感じることがノート一冊分くらいあったのですが、一つだけ紹介します。それは、皆が寝静まった夜中のことです。テントの真横でサカサカという物音を聞きながら、「井戸は掘ってみようかな」とか「やはり緊急事態に備えて、木造でよいので頑丈なシェルターは作ったほうがよいな」などと、子どもたちの体験のために今後何が必要かを考えているときに、思いつきました。

そうか、そもそも普段当たり前と思える水道だって、いつかどこかの先達が「次世代のために、水汲みにいちいち行かなくてもよい仕組みを作りたいな」と思いつき、技術を磨き、大変な工事を繰り返して実現できているのだな、ということですね。「先祖たちの子孫

への想い」が、想像できたのです。道だつて家だつて車だつて飛行機だつて、ゼーンぶどこかで不自由の課題を見出し、「子孫がより便利になる夢」を抱いた祖先一人ひとりの、情熱と努力の産物なのだなということですね。キャンプから帰ったら、まさにそのテーマのテレビコマーシャルが流れていました。未開の村で、母が身重だから病弱だから少年が手伝うしかなく、ラグビーの練習に行きたいのを我慢して、井戸から自宅まで甕に水を入れて運ぶ。ある日、欠席の理由を知った仲間たちが、各自甕を持参して手伝う。そしてその少年はのちに「村に水道を引く仕事」について、という話です。世界中で無数の、次世代の生活を想う気持ちがあり、水道がひかれ、道路が作られ、学校が建設された。我々は先達の「いつか子どもたちの住む世界が良くなりますように」という「夢」の実現された時代に生きているんだな、という想いです。ちなみに、朝起きてわかったのですが、カサカサの原因は蛇の脱皮する音で、脱ぎ捨てた殻を測ったらジャスト2メートルありました。脱ぎだての蛇の抜け殻の温かいヌルヌル感とともに、この想いは記憶に残りました。

子どもたちとの思い出で一番はと言われると、小魚料理でしょうか。米以外の食料は自

新刊情報

『あんしんえほん
はじめての「よのなかルールブック」』

高濱 正伸 監修（日本図書センター）



ベストセラー『おやくそくえほん』に【こころとからだのあんしん編】が登場。病氣・事故・犯罪……身近な危険から「自分を守る子」になるために、小学校入学前後に身につけたい42の習慣を紹介！「たいせつなわが子を守るために、どんなことを、どう伝えたい？」……そんなお父さん・お母さんを応援するしつけ絵本です。

『勝者の思考回路 成功率 100%の
ブランドプロデューサーの秘密』

柴田 陽子 著（幻冬舎）



己の感性と知力を頼りに、ブランドプロデューサーとしての地位を築いた一女性の、哲学と人生をつづった一冊。成功するための「思考回路」の一番の基本動作として「目の前にあるすべてに感想を持つこと」と捉えていることに、シンプルだが深い意義を感じた。それは、己の心を見つめるということであろう。子から良い感想を引き出すコツも説かれている。（高濱）

高濱の本棚

給という一日。何も手に入らなかったら醤油飯というルールでした。海岸だけでは少し可哀そうなので、1くんの船に乗せてもらって、一班につき40分だけ沖釣りをしようことにしました。すると、瀬戸内の豊かさのおかげで、大物の真鯛や鰹やグジ（甘鯛）などが釣れたのですが、ある班は一匹も釣れないボウズでした。ちょうど私自身が船で出た後のことで、聞いた話なのですが、子どもたちはガツクリと気落ちして、他の班からの魚を分けてもらえばよいではないかというリーダーの慰めにも、「いらない」と拗ねていたそうです。ところが、やがて気持ちを奮い立たせ、着替えて入れていたビニール袋などを使って、協力して浜辺のメダカほどの小魚の追い込み漁を始めた。情熱と工夫で徐々に獲れはじめ、20匹ほど捕獲。ちょうどそのとき私も島に帰ってきたのですが、沸き立っていました。しかし所詮小魚、料理の仕方でも何もないよなと見ていたら、一人が思いつき、アルミホイルの上に載せて焼きはじめたのです。あきらめない心に感動しながら、分けてもらって驚きました。多分イワシの子なのだと思うのですが、ただ焼いただけのその小魚は、塩味も良い加減で滋味深く、どんな料亭の高級料理よりおいしいと感じるくらい、心底旨かったのです。逆境を跳ね除け、みんなで協力して漁法を発明し、料理法を発明した素晴らしい子どもたちへの、神様の贈り物にも思えました。漁法の発明の中心の子と料理の発明の中心の子、二人の名を取って、「今後、この漁法と調理法合わせて、『ソウスケヒロノリメ

ソッド」と名付けるぞ」と私が言ったときの二人の喜びようは、忘れられません。特にヒロノリくんはもう有頂天とはこのことという表情で、「先生の力を借りずに、俺たち食料を手に入れられること証明したよね！あと一か月くらい居ようよ！」と仲間呼びかけていました。真夏の陽光を浴びたクシヤクシヤのその顔は、本当に輝いていました。

コロナ禍の今だからこそ、子どもたちに伝えたいのは、置かれた状況に不満を言うだけの人間になるということですね。世界には、学習や仕事などの「自分の行動」や「機械の調整」など、努力や改善などでコントロールできることと、「天候」「歴史的めぐり合わせ」「遺伝子（どんな親の元に生まれたか）」「社会に蔓延する疫病」のように、まったくコントロールできない、または完全にはコントロールしきれないことがあります。後者をにらみつけて、「私は不遇だ」と嘆くことほど、命を大事にしないもったいない態度もありません。

現代は便利過ぎて、生きる意味を見失いがちな時代でもあります。

子どもたちには、長い時間をかけて積みあがった「便利の集積」の都会に生きていると見失いがちな、不自由体験（「不自由なりに何とかしてみせる体験」や「不自由を乗り越えて楽しんでしまう体験」）を、大自然のなかで経験してほしい。そして、そのなかで「どんな状況でも愚痴を言ったり嘆いたりせず、

与えられた人生ゲームを満喫し、全力を尽くして周りを幸せにする力」を培ってほしいと思います。

最後に、今年いよいよ始まった「花まる無人島体験」ですが、これが実現できたのも、昨年来、数回にわたって、木々を伐採し、草を刈り、荒地をならし、山に道を作りという、大変な労働を担ってくださった「開拓団」の保護者の皆さまのおかげです。皆さまが切り拓いてくださった広場に、子どもたちはテントを設営し、生活し、貴重な経験を積むことができました。ここに改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

高濱 正伸

花まるだより アンケートのお願い

日頃より、花まるだよりを愛読くださり誠にありがとうございます。今後もみなさまにとってわかりやすく、より身近なものとなるよう、花まるだよりの記事やコラムについてのご感想や、「こうなったらいいな」などのご要望がありましたらぜひお聞かせください。

※ 11/10（水）19:00 までにご回答いただいた方に、抽選でささやかなプレゼントをご用意しています。

みなさまからのコメントを、高濱、スタッフ一同、楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

https://www.hanamarugroup.jp/usersystem/enquete_pre_form.php?en=4812



11/10（水）
19:00 まで

花まるだより 2021年10月号 (令和 3 年 10 月 15 日発行)

編集・発行 株式会社こうゆう
花まる学習会
発行人 高濱 正伸
企画・編集 久慈 菜津紀
編集 金井 彩・清田 奈甫
坂田 翔・高橋 奈穂
デザイン 春日 梨沙
印刷 アークランド株式会社

【小学1～6年生】

11月の特別授業は… 作文コンテスト



年に一度の「作文コンテスト」が近づいてきました。自分の感じたことをそのままに言葉で表せるようになってきた低学年。哲学を始めたり、技巧を凝らした表現をとれるようになってきたりしている高学年。どの学年の子も、「作文コンテスト」では、持っている力を余すことなく発揮してくれることでしょう。

なお、子どもたちが書いた作文の中で、その子ならではの視点や気持ち、感性豊かな表現で書かれているものは『花まる作文集』に掲載されます。文集に載ったことがきっかけで、作文を大好きになる子が多いようです。イベントやお出かけしたことだけではなく、普段考えていることや日常での些細な出来事など、身近なところこそ、素敵な題材が転がっているはず。ぜひ、日頃から目を向けてみてくださいね。

昨年度 受賞作品

がんばれスミレ



三年 女子

きのう、アゲハのよう虫が羽化しました。ほかに羽化した三びきのちよのなかで、一番感動した羽化でした。中休みに、教室にいた子みんな、アゲハ（名前はスミレ）を見送ったのですが、教室のすぐ下にある、ボールのようなものの所へ落ちていってしまいました。みんなが「がんばれ！スミレ！」という中、スミレは地面によたよたと落ちていきました。でも、とびませんでした。それで、地面に落ちてしまいました。スミレは、みんなにふまれそうになっていたけれど、どうにかのりこえました。でも、今度こそふまれてしまふ、というときに、間一ぱつで下におりていった子と先生が来ました。めちやめちや、めちやめちや、ハアハア言っていました。スミレは、すごく弱っていました。からだをがんばって、ピクピク、カタカタと動かしていました。先生が、羽をそっとつまんで花のくきのところにひっかけました。しばらくして、下校の時にも六人くらいで、「大丈夫かな？」といいながら、花のある場所に行きました。そうしたら、まだ、ピクピク、カタカタと動いていました。みんなその日は「明日の朝も見てみよう！」と言って帰りました。次の日の朝（今日の朝）見てみると、もうそこに、スミレはいませんでした。教室につくと、きのうの帰りにスミレを見ていた子たちが「スミレ、いなかったよー」とか、「虫に食べられたのかな」「ちゃんとべたんじゃない」「だつたらこのへんにいるはずだよ。」などと言っていました。わたしは、少し心ばいだつたけれど、きつと、空にとんで行ったんだと思いました。夕方になって

もスミレはまだ見つかっていません。わたしはスミレはやっぱりちゃんとんだと思います。なぜなら、ボールのようなものの所でぶつかつても自分から地面にとんで行つた、ゆう気あるスミレです。そんなスミレなら、きつと大丈夫だと思っています。今まで一番、こん虫の世界のきびしさを知った二日間でした。

あのおこりんぼうのきせきの一言

四年 女子

私は、四年間いっしょの友達がいる。でも、その友達はいくおこりんぼうだ。そのおこりんぼうは、その名の通りごくおこりんぼうで、いつも「お前」とさけんでおこられてる。わらわせようとしてもウケない。まあ少しはおもしろいんだけど。いいところは、努力家なところと、カワイくおねだりすればゆるしてもらえるところ。いいところもあるけれど、悪いところの方がめだつていてる。そのおこりんぼうと同じクラスで生活している間、一番感動した時がある。それは、二年生の国語の時間。すきな物語でけきなどで伝える学習をしていた。私は、あのおこりんぼうといっしょになった。私が選んだ物語は、青おにに赤おにがでてくる物語だ。役ぎめの時、おこりんぼうといつもにこにこしている男の子がけんかになった。

「ほくが赤おにだ。」

「オレが赤おにだ。」

それがくりかえされて、とうとういつもにこにこしている男の子が泣いてしまった。どうしよう。私、オドオドしている。先生もいそがしそう。こまっていると、だれかが笑った。そ

れは、あのおこりんぼうだった。

「フハハ。お前、顔が真っ赤っか。今のお前、赤おににってる。赤おにやりたいんだろ。お前の方がにているし、やりなよ、赤おに。オレら友達だろ、泣くなよ。」

その口から出た言葉は意外だった。私は、あのおこりんぼうと生活してきた中で一番感動した。あの一言は、ずっと心の中に残っていた。役ぎめが終わった次の日、いつものおこりんぼうにもどっていただけれど。

二度ね

五年 男子

「おーい。」

どこからともなく母の声が聞こえてくる。ハッ、またねてしまっていた。僕は最近6時くらいに起きるくせが付いてきた。と思うと、必ず二度ねしてしまう。なぜだろうといつも考えて工夫もしているのに、けっきょくねてしまう。前の日に「明日早く起きてやろう。」と思っていたものでもせずに、学校に行く時間ギリギリにやることになる。それはしょうじきつらい。

そして、いつも以上に考えた。そこで思いついた。目覚ましを5時ではなく5時くらいにかければ、だいたいいつも40分くらいねてしまうので、5時40分に起きられる計算になる。そして実践してみた。僕は、セットした時間には起きられる自信が少しあったので、できると思っていた。だが、そんな考えは甘すぎた。まず、5時に1回起きることすら無理だった。けっきょく、目覚ましはお父さんが止めたと思われ、6時に起きて二度ねした。

「やはり無理か…」

そうあらためかけていると、なぜか一つの案が思いついた。それは、「早くねること」だ。よく考えてみれば、早く起きるには早くねろ、と学校で言われている。

「何でこんなかんたんなことにきづかなかったんだ。」

一人で喜んでた。そしてその夜、いつもより早くねてみた。次の日、時計を見ると、6時40分。いつもよりおそくなくていい。

ギリギリで登校した日の夕がた、テレビを見てみると、3つ目の案が思いついた。それは、早く起きてすぐにテレビを見て目を覚ませばいいということだ。今回は成功する予かんがしていた。そして早起き二度ねやめよう作戦パート3が始まった。次の日の朝、6時に起きてすぐ、見たくもないニュースをつけた。すると、5分くらいで目が覚めた。

「やったー」

いつも以上にうれしい。こうして早起き二度ねやめよう作戦がまくをとじた。

最後に、この作戦は今でもつづけている。しかも、失敗したことがない。みなさんも、早起きしたかったら、ためしてみてください。人によって成功できるか分かりませんが…。

アラームと言う名の悪魔

六年 男子

「ジリジリジリ」

ほくは、今アラームと言う名の悪魔に夢から、引きもどされてる、現実には。

昨夜は、たよりがいいのある、天使だった。朝さわやかな気

分で起きて、勉強して、有意義な時をすくすはすだった。

しかし現実には、そんなに甘くなかった。アラームと言う名の悪魔は、動きをふうじてても、ふうじてても、五分おきに、「ジリジリジリ」とほくの精神にダメージをあたえてくる。そして、完全に動きをふうじたかと思うと、「はよ起きなさい!!」そう、ボスのことう場だ。

ボスがくると、ほくは、いやでも、飛び起きる。そして、パンをくわえて、家を飛び出す、歯もみがかず、顔も洗わず、素の状態だ。

そしてまた夜が来る。すると、目覚まし時計はたよりがいいのある、天使になる。ほくは、また起きれもしない、早い時間に、アラームをあわせる。昨日の朝のことなど忘れて…。

おうちの方へ

- 教室で1作品を書きます。作文コンテストのために下書きをしてくるなどの準備は必要ありません。
- 作文集には学年と個人名が掲載されます。個人名の記載を希望されない方は、あらかじめお通いの教室長にご連絡ください。
- 作文集に掲載された作品より、花まるグループのSNSや書籍などに個人名を出さずに掲載させていただくことがあります。掲載を希望されない方は、あらかじめお通いの教室長にご連絡ください。





こんげつ

今月のレインボータイム

さかた しょう はな がくしゅうかい
出題：坂田 翔 (花まる学習会)

【5枚の花びら】 5枚くっつけて、左の形になるのはどれ？

れい



かいとう
解答は
こちら！



レベル 10



①



②



③



レベル 50



①



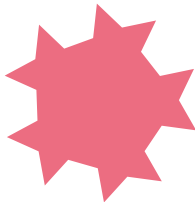
②



③



レベル 70



①



②



③



レベル 99



①



②



③



花まる リビング⑥

勝谷 里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、2児の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこくご伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんすう初級』（学研プラス）ほか



おやつと“数の感覚”

——知的活力や思考力は「生活」と「遊び」のなかで伸びる——

花まる学習会ではそのように提言していますが、実際にわが子を見ていても、本当にそうだなあ、と思います。

7歳の娘は、「雪見だいふく」で数の感覚を磨きました。初めて「雪見だいふく」を食べたのは、よくコンビニなどでも売っている2つ入りのもの（47ml×2個）。それがとても気に入って、毎回せがまれるので、（もうちょっとコスバがいいものにしよう…）と思い、「ミニ雪見だいふく」（箱入り、30ml×9個、3個で1つのパックに入っている）を選ばようになりました。



『かずあそび
ウラバン・オコサ』

谷川 晃一 作・絵
（童心社）

1と2だけで数を数える二進法に楽しく触れられるもの。難しい原理はともかく、声に出しながら読むことで、家族みんなで楽しめます。



『5のすきなおひめさま』

こずぎさなえ 作
たちもとみちこ 絵
（PHP研究所）

イラストと数がリンクしているので、発見も楽しめる絵本です。「5のすきなおひめさまの結婚相手はどうなる…？」とドキドキ。読んだあとに、「じゃあ、3をすきな人は誰とだったら結婚できるのかな…？」など、想像をふくらませていました。



『おまたせクッキー』

バット・ハッチンス 作
乾 侑美子 訳
（偕成社）

12枚のクッキーを食べようとするのですが、友達が遊びにくるたびに、自分が食べられる枚数が減っていき…、というお話です。わが家の雪見だいふくの事例を思い出し、「おやつ」と「数の感覚」って相性がいいなあ、としみじみ思いました。



『1つぶのおこめ
さんすうのむかばなし』

デミ 作
さくまゆみこ 訳
（光村教育図書）

インドの昔話の絵本で、楽しみながら倍数に触られます。幼児～低学年には、万や億の数はイメージしづらいかもしれませんが、見開きの絵のスケール感で「うっわー！めっちゃ増えた!!」という感動が味わえる楽しさがあり、おすすめです。

私の想定では「1回に1つのパックをあけて、娘・息子・母で1つずつ食べる」だったのですが…娘の主張は「絶対に自分ひとりです」。

「残り1パック（3個）食べる」「弟も1パック食べる」「残りの1パックがあまるとケンカになるから、もう1箱買って、自分と弟がけんかしないようにしたほうがいい」といったもの。（ああ、こういう計算って早いんだな…）と嬉しいうような、悲しいような…。あとは、「1人3つ雪見だいふくを食べるとしたら、うちは4人家族だから、全部でいくつ食べることになるんだろ？」といった、3の倍数がかかわる問題を出すと、ささっと正解できるようにになりました…！これも「雪見だいふく」のおかげです。勉強と思わず、「生活」と「遊び」の楽しい気持ちのなかで、数に触れたのがよかったのでしょう。

今回は、楽しみながら“数の感覚”を磨ける絵本を紹介したいと思います。

ちなみに、これらの絵本の読み聞かせを、姉の横で聞いていた弟。先日、5歳の誕生日を迎え、「これから、大人になるまでに、あと何回ぐらい誕生日プレゼントをもらえるんだろっねー」という話題になったとき、「んー、100回！いや、そんなに多くない。あと3回ぐらい」と言って、「いや、その間の数は!?」と突っ込まれていました。数の感覚は、子どもそれぞれ。勉強になりすぎず、引き続き、生活と遊びのなかで、楽しみながら触れていければと思っています。

“職人”の無人島レポート

その7

開拓団受け入れに向けて、カトパンとともに無人島へ向かった“職人”こと、橋本。 “職人”による無人島レポートをお送りします。

つながり、動画撮影 『テントの露コヒー』（来島）

朝、テントの中で目を覚ますと、すでに室内は朝日で十分な明るさになっていた。昨夜は寝る前に強い風の音がしていたが、今は聞こえない。寒くもない。いい日になりそうだ。

隣を見るとカトパンはまだ寝ていた。音を立てないように動いて、天井を見上げる。「無人島に来たなあ」と思う。昨日のことを思い出しながら、しばらくゴロゴロしているうちに、なんとなく一首詠んだ。

「無人島 肉も火もあり 水もあり パーリナイとつぶやいてみる」

無人島でやることは、なんでも特別になる。私は「無人島ゴロゴロ」を楽しんだ後、「無人島ストレッチ」をして体をほぐした。次はいよいよ「無人島起床」だ。出入口のジッパーを開けて靴を履き、テントを出る。振り返ってジッパーを閉めようとしたとき、テントの表面が露で濡れていることに気づいた。よく見ると、露はびっしりとテント全面を覆っている。このとき、普段なら「撤収までに乾かさねば」と思うところが、「もったいないな」と思ったのは、完全に無人島マインドになっていたからであろう。一時的に水不足の危機を感じてからとい

うもの、どこかに飲める水はないかと、無意識に探していたのだと思う。

こういうときに、私は「つながっている」感覚を得る。常にそのことを考えていると築かれる、自然環境との関係。もし、ナイフがなければ、代わりになりそうな石とつながるだろう。ロープがなければ、水がなければ露と。大昔の人間は、そうやって常に周囲の自然とコネクして、共存していたはずだ。私は、都市に暮らしながらその感覚を羨ましく思うときがある。

今も昔も変わらないのは、たぶん人とつながることだ。いつも考えている、誰かと。それは、家族かもしれないし、恋人かもしれないし、友人かもしれない。ただ、結局のところ、いつも考えているなら、その相手は自分の生存にかかわる存在だ。水や火と同じように。

散歩がてら、しばらく周囲を散策して戻ると、カトパンも起きて外へ出ていた。早速、露のことを話す。「これ、集めれば飲めますね。こういうの撮ったらおもしろいかも」。私は「今後こういう動画があったらいいですね」くらいのつもりだったが、カトパンの嗅覚がなにかを捉えたらしく、「それ、いま、撮りましょう」ということになった。考えてみれば、確かにちょうどいい題材かもしれない。「テントの露を集めて飲み水にする

様子」これならば、島の未知を明かすことなく無人島ならではのおもしろさを伝える動画になる。朝日で露が消えないうちに、早速、慌ただしく撮影準備に取り掛かった。

飲み水を作る手順は、こうだ。

テントの表面についていた露を、タオルで拭き取る↓タオルを絞って、器に露を集める↓溜まった水を、ろ過する↓ろ過した水を、煮沸する↓完成。

途中、「テント一張りどれくらい溜まるでしょうか？」クイズを挟んだり、「絶対こぼすなよ!」などの日本の伝統文化を盛り込んだりしながら、撮影はたぶん無事に終わった。

水を煮沸している間に、できる男カトパンが手際よく朝食のサンドイッチを作ってくれていた。トマトと、卵と、なにかが、雑に、いやワイルドに挟まれている。完成した飲み水で入れたテントの露コヒーと、ワイルドサンドイッチで、ようやく朝食をとった。沁みる。我々は、確かに無人島にいた。時刻はそろそろ9時になるところだった。

(つづく)



カトパン 加藤 崇彰

花まる学習会 無人島プロジェクト責任者。学生時代から、花まるの野外体験に深く関わってきた。現在は広島県へ移り住み、オンライン教室の教室長を務めながら、開拓団の受け入れや無人島開拓の準備を進めている。



職人 橋本 一馬

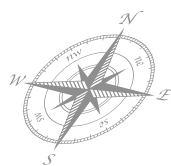
花まる学習会神奈川ブロック教室長。前職が家具職人だった経歴から、「職人」のミドルネームを持つ。その経験を元に、野外体験「ものづくりの国」、オンライン工作教室など、独特なイベントを担当している。家具製作技能士、狩猟免許など、ちょっと変わった資格や経歴を活かし、「メシが食える大人」に独自の視点でアプローチを行うことが好き。今回、趣味のキャンプ経験を買われ、無人島開拓に喜んで参加した。



今どうしてる？

卒業生物語

卒業生インタビューの第5弾！今回は、現在大学3年生で、会社代表としても奮闘する卒業生にインタビュー！



ようこそ先輩！！



やまもと りょうすけ
山本 亮輔さん

【花まる学習会】あざみ野教室（小学2～5年生）

※担当教室長：高橋 大輔

【スクールFC】あざみ野校（小学6年生）

【進路】公立中学校→慶応義塾高校・大学

【現在】学生・株式会社エラフルー代表



ディングを自分でできるようになっているという時点ですごいよな。エラフルーというのは？

山 福祉という意味の英単語「welfare」を逆から読みました。ボトムアップで障がい者領域を変えたいなって思ったので。インターンをしていたときに、まだ軽度の人にはリリーチできていないなって思ってた。

高 障がいがある弟とずっと過ごしてきたから、そういう子が生き残る社会に対して問題意識を持てたってことだよな。

山 弟のためにやったプロダクトが、弟みたいな課題を抱えている人みんなに有効展開できる。重度の子をほかにも身近に見ていたし、インサイトがあるの。重度の人の、学校以外の選択肢が少ないんです。放課後と土日は、YouTubeを見るか、親とお出かけするか、放課後等デイサービスに行くしかない。

高 放アイって預かっているだけみたいになるもんね。一般に、お稽古事ってみんなすごく楽しみに行くじゃん。「わー、水曜花まるだ！」とか「今日は野球だ！」とかさ。それがないもんね。

山 やりたくてもできない、それが一番よくないと思っています。「アイズニーに行かせろ」みたいな感覚で行ける場所をアートのやりたい。

高 あの子たちも楽しいし、「これは」みたいなものを探していくのは大変。それで、絵

に行きついたんだ。

山 なかなか難しい領域であることは理解していましたが、先行するベラルボニーさんの活動を見て、決意しました。いまはファーストステップとしてアートをやっていますが、次は音楽もやりたい。

高 アートは皮切りだね。音楽療法の俺の人生がもっと暇だったらやりたいんだけど、さすがに無理かな。体が足りない。

山 僕がやります。家族がみんな音楽をやっていたから、弟はむしろ音楽寄り、言葉をしやべれないのに自分で新しい曲を作ってたんです。たとえば「玉ねぎを食べたい」ときは玉ねぎの歌を歌う。全部音楽でやるんです。

高 それはまたすごいね。音楽はやっぱり一番力があると思うな。うちの子も音楽のときはキラキラしているもん。

山 いいですよ。受け身じゃないんですよね。音楽のあとは就労支援もやりたいです。その人たちの感性を生かして仕事に結びつけて。

高 作業所しかないんだよね。事実上の「お恵み」を、俺もなんとか変えたいと思っています。

山 才能を発掘して…あとついで仕事に。

高 教育のあり方で本当に一番いいのは、この子が一番とんがりそつなところを見つけて、そこを思いっきり伸ばすこと。それがで



きるといいんだよ。そういう障がい児教育は今までなかったからおもしろそう。アート・音楽は点数にならない。「どっちがいい」じゃなくて「それぞれ」になるからいいんだよね。

■がむしやらに

高 花まる出身で、ちゃんと芯を持って、行動力がすごくてどこで든新しいことをやっているところがいいよね。起業して動き出しているし、あとはもうやるしかないな。がむしやらにやればいいよ。俺も10年くらいひたすらやってた。

山 いま、イベントをやりたい。コロナ禍で宅配が増えて破棄が多くなった段ボールを買い取って、でっかい段ボールハウスを作るんです。それに子どもたちがスポンジを投げたり絵の具をふちまけたりして、好きなことができる体験をさせたい。その段ボールを崩して、藝大生が段ボールアートをやる。そのための場所を、いま探しています。

高 保護者のみなさん、週一でスポット借りできる場所があったら、ぜひ教えてください。まっすぐ自分の想いに向かって頑張っている亮輔を応援しています！

山 はい、ありがとうございます。

花まるの思い出 お母さんへの思い出、絆は強いよー



『泣ける話』を押しつけないで

以前、ある教育雑誌のインタビューで小学生にすすめる本を紹介した際、「子どもに命の大切さを教えられる本をお願いします。できれば、感動的な泣けるタイプの話で——」と言われたことがあります。

正直なところ、この言葉にはかなり違和感を覚えました。そして、次のように答えました。

「いや、子どもに命の大切さを教えられるような本なんてないです。泣ける話で子どもがよくなるなんてこともありません。だって、生きること死ぬことって本当に深い問題で、よく考えるとまだわかっていないことが、言語化できていないこととかも多いですよ。大人目線の感動を押しつけるような話で、安直な『答えらしきもの』を子どもたちに教えることなんてできないです。…そもそも、子どもに何かを教えるために本を使っているという発想を変えたほうがいいと思いますよ」

たしかに世間には子どもたちに「命の大切さ」「家族の大切さ」「友情の大切さ」「夢を持つことの大切さ」などを伝えるために書かれたと思われる本も多く出回っています。そして、そのような類の本が学校の課題図書に選ばれることも頻繁にあります。そんなとき決まって常には「感動」「必ず涙する」「温かい気持ちになれる」といった言葉が並びます。

■押しつけられると本嫌いになる

しかし、何か特定の「効果・効用」を得ることを目的とすることは、特に子どもの本には似つかわしくないと感じます。そもそも本当に良い本とは、安直な言葉でまとめられるものではなく非常に多義的なテーマを持っているもの。しかし、残念なことに、本というものを何かの「教具」として見て、子どもに特定の力や道徳観をつけさせようとする考えが、世間にはかなり広がっています。「泣ける話を読めば子どもがやさしくなる」という発想も、その一端でしょう。

大人の側が、「子どもに大切なことを教えるために本を読ませよう」と意気込んでしまえば、本を読むことがたんに「道徳的義務」と化してしまいきます。そしてそうやってしまった瞬間、子どもは本からますます遠ざかっていきます（実際、先述のような本を子どもたちはあまり好んで読んでいません。私自身も子どものとき、そのような本はどちらかというと嫌いでした）。

アメリカの女性生物学者レイチェル・カーソンの著書である『センス・オブ・ワンダー』には、子どもに何より必要なのは、「神秘さや不思議さに目を見はる感性」であると述べています。そしてこれはそのまま、子どもと読書という文脈でも当てはまります。

「子どもたちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激にみちあふれています。残念

なことに、わたしたちの多くは大人になるまでに澄みきった洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものの直感力をにぶらせ、あるときはまったく失ってしまいます。

もしわたしが、すべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない『センス・オブ・ワンダー』神秘さや不思議さに目を見はる感性』を授けてほしいとたのむでしょう。」

子どもたちに必要なのは、「感傷」ではなく「感受性」。知ることの前に、まずさまざまなものを「感じ取る」ことが大切であるということ。

自分のまわりに広がる世界をよく見て、何かを深く感じ取れば、自ずとそれについて「知りたい」という欲求が生まれてくるものです。何かの知識を増やす以上に、さまざまなものを心に深く感じ取る感受性を、子ども時代にこそ養ってもらえればと思います。

大人目線での感動を押しついたり、あれこれと徳目を教えることもしたりするのではなく、この世界の神秘や不思議に目を見張り、心から驚きを感じ、自分で考えつづけていきたいと思わせることが大切なのです。

『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン 著／上遠恵子 訳／新潮社

『子どもを本好きにする10の秘訣』

平沼 純・高濱 正伸 著（実務教育出版）



平沼 純（スクールFC）

教育心理学を研究し、「自分の視点を持って考え、力強く生きていく力の育成」を目指して教育の世界へ。国語を専門とする学習塾で読書・作文指導などに携わったあと、花まるグループに入社。現在、小学生から中学生までの国語授業や公立一貫コース授業のほか、総合的な学習の時間である「合科授業」などを担当。多数の受験生を合格へ導くとともに、豊かな物語世界の楽しさ、奥深さを味わえる授業を展開し続けている。





『新版 科学者の目』

かこさとし 文・絵
(童心社)

コペルニクス、ダ・ビンチ、木村栄、
ナウマン、アインシュタイン…。す
ぐれた業績を残した古今東西の科学
者たち 41 人を、彼らのもっていた

「目」に着目してまとめあげた伝記集。読み進めるうちに明
らかなるの、彼らの業績だけでなく、その瞳に秘めら
れた「心」。工学博士としての豊かな科学知識をもつ著者な
らではの視点が興味深く、科学史の入門編としてうってつ
け。自分が興味のあるページから、一日に一人ずつ読んで
も楽しめる。



『うちゅうはきみの すぐそばに』

いwaya けいすけ ぶん
みねおみつ え
(福音館書店)

自分たちが立っている地面から少
しずつ空へ向かっていき、街や山々、海を見下ろすようになり、
やがて宇宙空間へ…。一般的に、「宇宙」とは大気がほとんど
なくなる「地上 100 キロメートルより上空」とされています。
実は、東京駅から富士山よりも近い距離。いま自分のいる場所
から宇宙までの距離感を体験できる、ユニークな科学絵本。こ
れを読めば、宇宙が少しだけ身近になるかも。



『絵とき ゾウの時間と ネズミの時間』

本川達雄 文
あべ弘士 絵
(福音館書店)

ネズミの寿命は数年、ゾウの寿命は 70
年ほど。でも、一生の間に打つ心拍数はどちらも 15 億回——。
意外な事実から、地球上に生きる動物たちの生態がわかります。
非常にクオリティーの高いノンフィクションを出し続ける、福
音館書店「たくさんのふしぎ」シリーズの一冊。同名のベスト
セラー新書の絵本版です。



ひらぬま
じゅん
の

ようこそ
かがくせかい
科学の世界へ！

Vol.28



『素数ゼミの謎』

吉村 仁 著
石森 愛彦 絵
(文藝春秋)

13 年、17 年など、なぜか素数の年数だ
け地中にいて一度に大量発生する不思議
なゼミ、「素数ゼミ」。アメリカにいるそ
のゼミの謎を解明した、日本人科学者による本。終盤に向けて
謎が解明されていくさまは、まるでミステリー小説を読ん
でいるかのような感覚です。高学年以上の読書感想文などにもぴ
つたりの、魅力的な科学書。



『フィボナッチ 自然の中 にかくれた数を見つけた人』

ジョセフ・ダグニーズ 文
ジョン・オブライエン 絵
渋谷 弘子 訳 (さ・え・ら書房)

史上最も優れた数学者の一人とされる、
レオナルド・フィボナッチの半生を描いた伝記絵本。1、1、2、3、
5、8、13、21、34、55、89……。自然界のあらゆる場所に
隠されている「フィボナッチ数」が明かされるページでは、鳥
肌が立つほどの感動を味わえます。「のうなし」と呼ばれても、
自分の関心ごとを追及し続けたフィボナッチの生き
方も胸に響きます。

全国から
参加可能！



11月 <第7回> ようこそ！『この世ならざる者たち』の世界へ！

おばけ、幽霊、魔女、妖怪…。目には見えない「アナザー・ワールド」からの使者である彼らは、日々何気ない日常を送る私た
ちに何を語りかけるのか？ ちょっと怖いけれど魅力あふれる、「この世ならざる者たち」の世界へとご案内します。

11/18 (木)・11/20 (土) 10:30 ~ 11:50

参加費 一家族 500 円 (税込)

申込締切 開催前日の 19:00

<https://www.schoolfc.jp/extension/j-hiranuma/2021/>





フランシス・ プーランク

1899-1963 フランス

vol.27

アノネ ラウンジ Lounge

アノネ音楽教室の作曲家の人生を辿る伝記教材『おべら』の一部をご紹介します！クラシック音楽の作曲家を毎回一人取り上げて、名曲が生まれたストーリーに迫ります！



プーランク

「あるときはおしゃれで親しみやすい曲を作り、あるときは神様に捧げる感動的な曲を生み出した、フランシス・プーランクは、1899年、フランスのパリに生まれました。お母さんはピアノを本格的に学んだ人で、プーランクは5歳頃からお母さんに音楽のことを教わり始め、8歳から先は、専門の先生にピアノを習います。

19歳から21歳までは、兵隊として戦争に駆り出されていました。その間も現地でピアノを借りては作曲に励み、戦争が終わるとすぐに有名な先生のもとで作曲の勉強を始めます。熱心に学んだプーランクは、バレエやピアノ曲、オーケストラなどの作品をたくさん作り始め、バレエ『牝鹿』の発表では、大評判になりました。

30歳頃、プーランクは結婚を考えていました。相手は幼馴染のレイモンドという女性。自分の音楽をよく理解して、アドバイスもしてくれるレイモンドとともに生きたいと望んでいました。けれどもレイモンドは、結婚を受け入れません。落ち込むプーランクの心をなぐさめてくれたのは、偶然出会ったひとりのビジネスマンでした。プーランクは、いつの間にかその男の人のことが好きになっていることに気づきます。「ぼくは自分が何者なのかわからない。」

その頃、プーランクが友人に宛てた手紙からは、自分の気持ちに戸惑う様子が伝わってきます。レイモンドは、プーランクが女性ではなく男性に好きになることがあるとわかっていたようでした。次の年、レイモンドが突然亡くなってしまうと、プーランクは大きなショックを受けました。レイモンドに捧げる小さな歌曲を作り、『牝鹿』の楽譜を棺に入れました。この頃から、作る曲がこれまでよりも深みを持ったものになっていきます。(伝記教材『おべら』より抜粋)

『15の即興曲』より第15番ハ短調

《エディット・ピアフを讃えて》FP.176 (1959年)

プーランクは、戦争の犠牲になってしまった詩人や、亡くなった友だちの画家などさまざまな人のために曲を作っています。美しい歌声でパリの人々から愛されていた女性シャンソン歌手エディット・ピアフにも曲を捧げました。『エディット・ピアフを讃えて』というこのピアノ曲は、美しいメロディーで、いまでも愛される名曲です。

プーランクは、人々の近くにしようとした作曲家でもありました。自分の歌曲のコンサートを開くときは、自分でピアノを演奏しましたし、ラジオ番組では人々にわかりやすいように音楽の解説をしています。寂しがりやなプーランクのまわりには、彼を慕う人々がたくさん集まっていました。

編集：鈴木 有美 (アノネ音楽教室)

エディット・ピアフを
聴いてみよう
讃えて



<https://www.youtube.com/playlist?list=PL7kd0pC6w0ucOxb6xRttYKplsuzalWxRO>

おうちでできる 花まるメソッド

絵本のちから—ことばの獲得

数年前、「入学前に揃えたい8冊」というお題で
ある雑誌の取材を受けました。そのときに、参考資
料にと私が本棚の奥からひっぱり出してきたのは、
幼稚園時代の「えほんノート」でした。当時、私が
通っていた園で実施されていたものです。園の図書
室で借りた「絵本の名前」「だれに読んでいただき
ましたか・おうちからのたより」の小さなスペース
がある手のひらサイズの冊子。これが実におもしろ
い発見の連続でした。

年中時代の6月からそれは始まっており、卒園ぎ
りぎりまでの記録が綴られています。よろよろした
頼りない文字で「おもしろかった」と自分で書いて
いることもあり、かわいいものです。

見どころは、母の残したコメント欄です。たった
ひとこと「何よこれ。どういうこと？ママどう思
う？」（という私の放った言葉を記した）だけのと
きもあれば、「ゆうかなりトルクーンやのにな
んでこわがるの？」「なんで戦争するの」…などな
ど、子どもならではの視点で発する自由な言葉に笑
える反面、「娘は表面的にしか受け取っていません。
これは子どもの本であるようできて、親が考えさせ
られる本だと思えます」と、母自身の感想として書
かれたものもありました。

「帰ってすぐ、服も着替えず、大声で読んでいま
す」「すーが8回あるのがおもしろいぞ」「魔法の
呪文が逆さまと発見して大声をあげて笑っていまし
た」からは、あやはいり幼児は言葉のリズム感を楽
しむことに敏感なものだ、言葉遊びが大好きで、発
声することが楽しいものだな、と幼児の特性を
感じます。

さらに、「おもしろいしぜったいいい本やからマ
マに聞かせたい、と借りてきました」「あくおもしろ
かった！借りてきてよかったな！」「という言葉が
たくさん出てきます。毎週絵本を借りる日がある。
そのことが、日常の楽しみな習慣として存在してい
て「週に一冊記録を残す」ことが、私と母との間で、
大事なコミュニケーション手段となっていたのだと
いうことがわかります。

「字が少ない絵本だから借りてきたぞ」「自分で
読める字の分量の本を借りています」というメモが、
ある期間なんども繰り返して出てきます。内容ではな
く、自分が読みやすいかどうかで本を選ぶ時代がし
ばらく続いたあと、「最近静かに読んでいる時間
が長くなりました」と、本当の意味で読書を楽しむ
時代へと突入しています。

本の中の役になりきって遊んだりする様子なども
しょっちゅう出てきます。絵本とは、擬体体験をし
て共感することができるとののだなと改めて感じ
ましたし、「わたしもくまさんみたいに優しくして
もらいたい」などと母親に自分の気持ちを伝える
きっかけにもなっています。読後は、まるで花まる
の教室で授業をした後のようなあたたかな気持ちに
なりました。

「あまもりって何？」「むつつりって何？」「くや
しいってどういふこと？」と知らない言葉を質問す
る場面は何度も登場するのですが、一年半後、「最
後の家出のときくやしかったんやろな」と、質問し
た言葉を、自分のものとして使えていたことを見つ
けました。ああ、子どもたちが言葉を獲得していく
過程に、絵本の果たす役割は大きな、と改めて感
じました。

11月のオンライン Atelier for KIDS

11/14 フェルト ART
対象 小学1年生～中学生 36名(抽選)
参加費 1名2,900円
(税込・材料郵送費込)
申込締切 11/2(火)19:00

<https://www.hanamarugroup.jp/art-edu/news.php>



最後に「私も先生になりたい、でもこのことは恥ず
かしいから書かん」と言っています。自分自身がそん
なことを言っていたなんてちっとも知りませんでした。

Rin (井岡 由実)

Rin (井岡 由実)

花まる学習会取締役、「ARTのとびら」主宰。児童精神科医の稲垣孝
氏とともに、心を病んだ青年たちへの専門的な対応に専心。花まる
学習会中・年長向け教材開発に携わり、冊子『1年生になる前に』
では、幼児期に伸ばしたい能力や感性の教育について論じる。著書
に『こころと頭を同時に伸ばす AI時代の子育て』(実務教育出版)ほか。



※ ART のとびら公式YouTubeでは、Rin コラムを音声で聞けたり、保護
者の方からの相談に答えたりする「アトリエ RADIO」、工作好きな子ど
もたちのうち ART を応援する「Rin 先生が作ってみたよ」シリーズなど、
盛りだくさんです。





はな きょうしつちょう しょうかい
花まるの教室長を紹介します！

はな 花まるファミリー



FC …スクールFC

…アノネ音楽教室

アルゴ …アルゴクラブ

…オンライン

…無人島

GONOU …GONOU 囲碁教室

きょうしつちょう じんぱん しょうかい たの
みんなの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに！



ウェザー
いしず たかし
石須 孝志
埼玉県 東京西



カモン
おかもと ゆうき
岡本 祐樹
神奈川県 東京東



ギョラガシニ
お せ どりょう
尾瀬戸 涼
千葉県 東京南



アナルヨシ
きたまる としき
北丸 隼己
愛知県 中京



スプリング
さ さ き まさね
佐々木 真音
島根県 東京東



トミー
とみなが ま こ
富永 真子
茨城県 オンライン



ガンガ
はだの たつや
秦野 達也
神奈川県 神奈川北



アリババ
はる き みつゆき
春木 満之
島根県 東京南



たんしお
ふじえだ しおり
藤枝 詩織
茨城県 茨城



まゆちー
まちだ あきひろ
町田 光優
千葉県 東京南



のりぼん
むらた ひろり
村田 寛典
千葉県 千葉



アンソニー
やなぎざわ はやと
柳澤 隼人 FC
東京都 東京東




アルプス
やまね ひろとも
山根 大知
鳥取県 神奈川北



まんまん
たかはま まさのぶ
高濱 正伸
熊本県

リーダーネーム

名前
出身地
所属



サマースクールや雪国スクールで会おうね！

10月の誕生花は ガーベラ

小学生のときに読んだ『数の悪魔:算数・数学が楽しくなる12夜』(H.M. エンツェンスベルガー 著/晶文社)。わが家庭にボツンと佇む、秋のひまわり。その種の並びを数えて「これがフィボナッチ数列か…」と呟いたのを覚えています。何を知ったふうに。でも、世界に数学のロマンを見出したのは確かでした。一坂田翔(ピカソ)

頭の中を覗き込む

花まる学習会では、毎週一枚作文を書きます。毎回の授業で書くので、「今日は何も書くことがない！」と言う子も当然出てきます。作文に苦手意識のある子は、用紙を前に思考回路が停止してしまっていることも。原因は、「たくさん書かなければいけない」「良く書かなければいけない」「何か特別なことを書かなければいけない」など「こうしなければいけない！」と思っているから。そう思うと途端に鉛筆は止まります。

私は教室で、「急にたくさん書こうとしなくていいよ。先生はみんながいつも何を考えてどんなふうを感じているかわかりません。頭をバカッと開けて『ふむふむ。こんなことを思っているんだ』と覗くこともできない！みんなも先生が何を考えているかはわからないでしょ？本当に小さな気づきで

いいんだよ」と子どもたちに話をしています。

教室で見た素敵な作文を紹介します。

「おねえちゃんいじわるしてもじつはすきだよ。これからいっばいあそんでね。」

短い作文ですが、この子のお姉ちゃんに対するあたたかな思いが伝わってきて思わず笑顔になりました。

狙った言葉ではなく、純粹でありのままの言葉ほど人は心を揺さぶられるものです。

毎日を懸命に過ごしている子どもたちです。良いことばかりではないでしょう。悲しかったり、悔しかったり、腹立たしいことも起こります。子どもの毎日は大小さまざまな発見の連続。大人もアンテナを張っていればさまざまな気づきことはありますが、子どものそれには到底及ばないでしょう。だからこそ、その尊い気づきを自分

の言葉、自分の気持ちを素直に書けるようになってほしいと声をかけています。

語彙が少ないがゆえに、自分の思いを表現しきれず、もどかしさを感じるかもしれません。しかし、説明できない思いがあることを知るのも大切です。語彙が増えて「いまの自分の気持ちはこうやって表現できるのか！」とまた新たな発見をし、知らないことをどんどん知る過程を楽しむことができます。

「帰り道の花がきれいだった」

「おなかがいかなかった」

「明日の休み時間が楽しみ」

それでいいのです。言ってしまう言葉はツールにすぎません。自分が感じたこと、そうなんだ！と腑に落ちたことでなければ伝わりません。どんな思いを言葉に乗せるか。子どものいまだからこそ感じるこのできる思いがあります。その思いを自分の言葉で素直に書いてほしいのです。将来、振り返

たときに自分の軌跡は時代を超えて自分を救ってくれるでしょう。ただ目の前のことではなく、その感動を教室に通っている子どもたちに感じてもらいたい。そう願っています。

花まる学習会 濱本 和美





あき みかく 秋の味覚といえきこのこ！



いちねんじゅう みせ なら
一年中お店に並んでいるきのこ類。いつも見ているものは、工場で菌床栽培されているものがほとんどなので、季節
を問わず安定した価格と質でおいしいきのこを味わうことができます。

唯一といってもいいのが松茸（他にもありますが）。松茸は栽培が難しく、秋になって山で生えてくるのを待つしか
ないですね。お値段が格段に違うのも納得です。

さて、季節をあまり感じることができないかもしれませんが、きのこの旬は秋。いつも食べているものですが、いま
の時期は、改めて「秋の味覚だな」と味わってもらえたらと思います。

秋から冬にかけて空気が乾燥してきますが、薬膳的な考えだと、きのこは肺を潤す効果があるとされていますので、
やっぱり旬の素材には大きな意味があるんですね。

そんなきのこですが、実は、子どもの嫌いな野菜ランキングの上位に必ず入ってくるものの1つです。それを知って
から私は、きのこが苦手だという子に会うとインタビューをしています。「なぜ、どんなところが苦手なのか」と。

その結果、味というよりも「食感」が苦手ということがわかってきました。「にゅるっ」とした舌触りがだめだとい
う子が多いのです。あとは香りも苦手だったりして、以外と「味がいや」という声は少ないかもしれません。

子どもの好き嫌いに関して、私はあまり神経質にならなくてもいいと思っています。ある日、突然食べだすこともあ
るし、その日の気分が食べたり食べなかったりもするので、「うちの子は〇〇が嫌いなので」と決めずに「〇〇を食べ
ない日がたまたま3年、5年、10年続いているのね〜」くらい肩の力をぬいて大丈夫。でも、食べないからといって、
食卓に並べないのはNGです。

うちの子もそうでしたが、本当に、なにをきかっけに食べだすかわからないので、何食わぬ顔で、淡々と食卓に出し
続ける。「食べなさい」と言わないで、大人やほかのきょうだいが普通に淡々と、おいしいね、と食べ続ける。

そのうち、うっかり食べる日がくるかもしれませんし、大人になるまで苦手なままかもしれませんが、それはそれと
して、苦手な食べ物が1つや2つくらいあってもいいと思います。野菜を一切食べない、おやつしか食べない、とい
うのはちょっと考えものですが、そういう場合は、1つでもなに食べられるようになるのをファーストステップとして、
焦らずにゆっくりと克服していくといいと思いますよ。

しょく 食のプロからのアドバイス

おうちでチャレンジ！

きのこは1種類で食べるより、数種類を組み合わせるのをおいしく食べる秘訣です。2〜3種類のきのこを手でほぐし、
アルミホイルで包んでホイル焼きにするのが簡単でとてもシンプルですが、素材を存分に味わえる食べ方です。

きのこが苦手な子には、細かく刻んで、ドライカレーやミートソース、ジャージャー麺の肉味噌に入れてみてください。しっ
かりした味付けとみじん切り効果で、にゅるっとした食感もなくなります。おまけに、きのこの旨味効果で味がぐんと良くなる
ので、おいしさ倍増ですよ。